

# 自彊前進

題字 西村直子

NO. 7 令和5年4月28日(金)  
新潟大学附属新潟中学校 学校だより  
文責 教頭  
※ 自彊前進…自ら努め励み、前に進むこと  
(校歌3番の文言から)

## すなやま完歩大会に向けて

例年ときわ体育祭後に実施されていたすなやま完歩大会ですが、今年度は、順番を入れ替え、5月12日(金)に実施します。昨日の生徒朝会時に、すなやま完歩大会実行委員会より、行事の目的、内容等について説明がありました。準備期間が少ない中、実行委員は朝早く集まり、一生懸命準備していました。本当にありがとうございます！

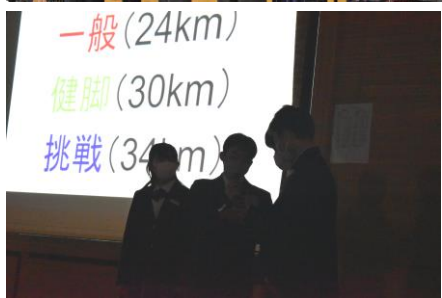
また、今年度は久しぶりに保護者の方々からもボランティアとして、また一緒に歩く仲間として参加していただけます。楽しみです。

この行事は、昭和52年11月15日に初めて行われました。当時は、学校からバスで内野、越前、角田まで生徒を輸送し、学校を目指して砂浜をひたすら歩いて帰ってくるという形式でした。それゆえに、『すなやま』の文字が名称に入っているのです。附属中学校50周年記念誌『創造の半世紀』に当時の副校長嘉村正規先生(昭和50～52年)が寄稿されているので、紹介します。

## すなやま完歩大会のはじまり

「すなやま完歩大会」は「木曾路の旅」とペアで計画し、三年間で生徒たちは百キロを歩くことを目指した行事である。着替えを用意して雨天決行の計画であった。幸い当日は晴天、教育実習生も参加して、全校生徒が完歩した。(中略)

ヒトは自然の変化に耐えてたくましく生きなければならない。豊かな、生活に埋もれて、野性を喪失したヒトに、野性味のある人間性を甦らせるべく、附中生徒にそれを求めたのである。「自主独立」は、自ら歩く行為によって始まり、野生に支えられてこそ身につく。生徒たちに期待したこの行事は、五十歳をすぎた副校長が先ず独りで歩いて確かめ万全を図った。保護者も支援し、十年後に再びみんなで開催しようと語り合ったものである。



完歩実行委員による説明の様子



50周年記念誌『創造の半世紀』より